

2017年度 事業報告書

自 2017年 4月 1日

至 2018年 3月31日

公益財団法人 日本感染症医薬品協会

I. 公益事業

1. 普及啓発

(1) 機関誌及び刊行物

① The Journal of Antibiotics

Vol.70 No.4~12 及び Vol.71 No.1~3 を毎月 27 日に発行し、Vol.70 No.4, 5, Vol.71 No.1, 2 は特集号となった（総論文数 185 編、1,226 頁）。

また、2017 年 6 月 3 日に第 60 回国際編集会議（New Orleans）、そして 2017 年 8 月 9 日に本協会会議室にて、国内編集会議を開催した。

② The Japanese Journal of Antibiotics

Vol.70 No.2~6 及び Vol.71 No.1 を偶数月の 25 日に発行し（総論文数 37 編、327 頁）、また、電子ジャーナルとして本協会ホームページに公開した。そして、2018 年 1 月 29 日に編集会議を開催した。その他、2 回のメールカンファレンスを開催した。

③ 「マクロライド新作用研究会」記録集の刊行

The Japanese Journal of Antibiotics Vol.71 Suppl. A として「マクロライド新作用研究会」記録集（2018 年 3 月 31 日発行）を発行した。

(2) 講演会

① 記念講演

1) 住木・梅澤記念賞の受賞記念講演

2017 年 11 月 9 日

[主婦会館プラザエフ]

受賞者：阿部 郁朗（東京大学大学院 薬学系研究科）

受賞講演：「放線菌由来生物活性二次代謝産物の生合成研究」

2) 日本感染症医薬品協会奨励賞の受賞記念講演

2017 年 11 月 9 日

[主婦会館プラザエフ]

受賞者：宮元 敬天（長崎大学生命医科学域 薬剤学分野）

受賞講演：「低体温療法人におけるバンコマイシン投与最適化に向けた組織移行性変化の要因解明」

② メディカル・サイエンス セミナー（最近話題の微生物のはなし）

1) 2017 年 7 月 10 日

[学士会館]

講師：岩田 敏（国立がん研究センター 中央病院 感染症部）

講演Ⅰ：「AMR時代の感染制御と危機管理」

講師：岡部 信彦（川崎市健康安全研究所）

講演Ⅱ：「20年に及ぶ、これまでのワクチン行政の変遷と、
今後我が国に期待するワクチン行政のあり方」

2) 2017年11月9日 [主婦会館プラザエフ]

講師：二木 芳人（昭和大学医学部 内科学講座 臨床感染症学部門）

特別講演：「MRSA感染症の治療ガイドライン2017」
ーそのコンセプトに準じた新しい治療戦略ー

3) 2018年1月15日 [学士会館]

講師：藤村 茂（東北医科薬科大学 臨床感染症学教室）

講演Ⅰ：「抗菌薬適正使用の今後の方向性」

講師：竜田 邦明（早稲田大学）

講演Ⅱ：「知の創造と活用」

③ 耐性菌対策事業

2017年7月10日、11月9日と2018年1月15日に開催されたメディカル・サイエンス
セミナーで、耐性菌のテーマの講演を行った。

④ 出張講演

1) 2017年6月7日 [兵庫県：市立川西病院]

講師：荒川 創一（三田市民病院）

演題：「急性期病院における耐性菌対策」

2) 2017年6月22日 [東京都：介護老人保健施設エーデルワイス]

講師：林 泉（公益財団法人佐々木研究所附属杏雲堂病院）

演題：「結核予防について」

3) 2017年9月10日 [東京都：大田区立池雪小学校]

講師：斧 康雄（帝京大学医学部 微生物学講座）

演題：「よくわかる身近な感染症」

(3) 行政機関及び内外の諸団体との連絡、協力及び交流

① 行政機関との連絡及び協力

1) 厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課

薬剤耐性対策の一環として、貴重で重要な薬剤の適正使用に努めるため組織された「バンコマイシン研究会」が2017年11月16日に、「リネゾリド研究会」が2017年12月12

日に開催され、担当官が出席した。

2) 厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬安全対策課

医薬品審査管理課担当官とともに、2017年11月16日に開催された「バンコマイシン研究会」、2017年12月12日に開催された「リネゾリド研究会」に担当官が出席した。

医薬安全対策課 担当官より、2017年6月健康局より発出した、抗微生物薬適正使用の手引きに基づいて、各抗微生物薬の添付文書に、適正使用を促す旨の文言を追記する改定に関しての打合せを行いたいとの連絡を受け、2018年1月12日、厚生労働省にて、事務局長が月曜会幹事を同伴して、日本製薬団体連合会、担当官の3者で、意見交換を行った。

② 内外の諸団体との共催、後援、連絡、協力及び交流

1) 第28回新薬創製談話会「疾患と創薬のイノベーション」

2017年7月11～12日

[焼津グランドホテル]

2) 第24回マクロライド新作用研究会

2017年7月21～22日

[飯田橋レインボービル]

3) 第32回トラベラーズワクチンフォーラム研修会

2017年9月2日

[一般財団法人 日本教育会館(一ツ橋ホール)]

第33回トラベラーズワクチンフォーラム研修会

2018年3月10日

[国立国際医療研究センター]

4) 日本化学療法学会／日本感染症学会

第91回日本感染症学会総会・学術講演会／第65回日本化学療法学会総会

2017年4月6～8日

[京王プラザホテル]

第64回日本化学療法学会東日本支部総会/第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会

2017年10月31日～11月2日

[京王プラザホテル]

第65回日本化学療法学会西日本支部総会/第87回日本感染症学会西日本地方会学術集会

第60回日本感染症学会中日本地方会学術集会

2017年10月26～28日

[長崎ブリックホール]

5) 日本環境感染学会

第33回日本環境感染学会総会・学術集会

2018年2月23～24日

[グランドプリンスホテル新高輪・国際館ハミール・グランドプリンスホテル高輪]

6) 日本放線菌学会

第 62 回日本放線菌学会学術講演会

2018 年 3 月 14 日

[東京電機大学 東京千住キャンパス 1 号館 1 階]

(4) 蔵書等閲覧・コピー

本協会に所蔵の書籍、刊行物、資料等の閲覧、コピーが可能である旨をホームページ上に掲載し、一般の利用に供した。

2. 研究助成及び表彰

(1) 住木・梅澤記念賞

住木・梅澤記念賞選考委員会が、2017 年 7 月 14 日、本協会会議室において開催され、東京大学大学院 薬学系研究科 阿部 郁朗氏が選考された。

(2) 奨励賞

日本感染症医薬品協会奨励賞選考委員会が、2017 年 7 月 19 日、本協会会議室において開催され、長崎大学生命医科学域 薬剤学分野 宮元 敬天氏が選考された。

(3) 2017 JA Ōmura Award (旧 JA Medal)

2017 JA Ōmura Award の投票が行なわれ、次の論文が確定した。メダルと賞状の授与は 2018 年度に行なわれる。選考対象論文：Vol. 67(2014) – 69 (2016)

Review article

受賞者：Mark S Butler

受賞論文：Glycopeptide antibiotics: Back to the future [Vol.67, No.9, pp.631-644, (2014)]

Original article

受賞者：Poochit Nonejuie

受賞論文：Application of bacterial cytological profiling to crude natural product extracts reveals the antibacterial arsenal of *Bacillus subtilis* [Vol.69, No.5, pp.353-361, (2016)]

II. 共益事業

1. 月曜会

特別会員幹事会である月曜会が、2017 年 7 月 3 日、9 月 20 日、12 月 13 日に、本協会会議室において開催された。また、メディカル・サイエンス セミナー開催について、開催日程、講演内容、講師について、検討を行った。

新ワクチン分科会の活動休止報告が行われた。

本協会のホームページに掲載されている「抗菌薬審査報告書データベース」の更新について、月曜会委員にアンケート調査を行い、希望が多かったので、データ更新を行うこととし、「抗微生物

薬等審査報告書データベース作成分科会」を設置した。同作成分科会委員に佐々木委員が推薦され、承諾した。他の委員は、月曜会に協力を求め、委員を承諾してくれる場合は、後日、事務局に連絡して欲しいと依頼したところ、大江委員（第一三共（株））、地曳委員（富山化学工業（株））から、連絡があった。

特別会員会費について、新しい抗菌剤がない現状、本協会への会費に対する社内の目が厳しくなっている。本協会を維持するためにいくら必要で、それをどう負担するのか、検討する必要があるとの意見があった。

本協会の認知度を上げるため、また、会員に満足してもらうため、「協会事業検討委員会」を設置した。委員として、月曜会幹事 第一三共（株）南谷委員、同副幹事 大日本住友製薬（株）若村委員、次期の副幹事予定 富山化学工業（株）地曳委員が推薦され、承諾した。また、顧問として、丸尾監事が推薦され、承諾した。

2. 新ワクチン分科会

新ワクチン分科会は、2017年6月29日、10月4日に開催され、7月中は、メールカンファレンスを行った。同分科会は、2012年10月に設置され、当初、感染症予防ワクチンの臨床試験ガイドラインのQ & Aを発出要望に向けた議論を行った。その後、感染症予防ワクチンの臨床試験ガイドラインに紐付ける必要があると考えられる各論ガイダンスについて、整備を要望すべきガイダンスとその骨子、及び盛り込むべき項目・検討事項を纏める作業を行った。この成果を踏まえた今後の進め方について専門家の医師から、業界団体が一枚岩になり、活動することが重要であるとの助言を受けたことから、「感染症予防ワクチン開発のための指針整備及びそれを支援する国内環境等の整備に関する要望書（案）」を作成することとし、日本製薬工業協会「以後、「製薬協」、米国研究製薬工業協会（以後、「PhRMA」）、欧州製薬団体連合会（以後、「EFPIA」）等の関連団体に協力を働きかけて同要望書（案）の最終化を図ることとした。2016年度に同要望書（案）を製薬協、PhRMA及びEFPIAの3団体に提示（英文版・日本語版）し、協力を求めたが、製薬協以外からは検討するリソースの確保の問題や優先すべき検討事項が他にあることを理由に協力を断られた。これを受けて当協会では関連業界団体共同での要望書（案）提出は断念することとし、当協会が主体となって予防接種推進専門協議会に協力を要請することとした。2017年5月に予防接種推進専門協議会に正式に協力依頼し、方針を協議していたところ、製薬協のメンバーから、PhRMAを中心とした4団体（+EFPIA、製薬協、日本ワクチン協会）がワクチン関係の課題解決に向けた要望書を国に提出する準備を行っているとの情報が共有された。当協会でも準備・作成した同要望書（案）は同分科会委員が時間を割いて検討して作り上げたものであり残念であるが、当協会からの要望内容が4団体の要望枠内に含まれていることを踏まえて4団体の要望に委ねることを分科会で決定した。この方針決定を受けて予防接種推進専門協議会への協力依頼を取り下げることとした。当面は、同分科会の活動を休止するが、月曜会から、ワクチンに関する検討課題の提案があれば、活動することとした。

3. 抗微生物薬等審査報告書データベース作成分科会

抗微生物薬等審査報告書データベース作成分科会は、3月15日に開催された。検索データベー

ス“ARROWS”の構成について確認後、データベースの対象となる品目について、第一段階として、抗菌剤をピックアップし、第2段階として、抗ウイルス、抗真菌等のデータシステムを対応させることとした。また、ワクチンについても第3段階としてデータベース化を検討することとした。

4. 協会事業検討委員会

協会事業検討委員会は、2017年9月26日、11月27日、2018年2月5日に開催された。時に、月曜会委員以外の特別会員会社の人にも入ってもらい、事業の方向性について、活発な討議を行った。メディカル・サイエンス セミナーは、国が発出したAMR対策アクションプラン(～2020年)に基づき企画することとし、演題・演者について具体的な検討を行った。

2月8日には、月曜会有志も含め、本協会が「碧素」等の貴重な薬品・資料・模型を寄託している、内藤記念くすり博物館見学を行い、ペニシリン学術協議会・日本抗生物質協議会と続く協会の歴史共有を図った。

5. バンコマイシン研究会

バンコマイシン研究会が、2017年11月16日に、本協会会議室において開催され、耐性菌報告、販売数量報告が行われた。

その後、厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬安全対策課 大井恒宏 課長補佐より、『「抗微生物薬適正使用の手引き 第一版」を踏まえた添付文書改訂に関して』の教育講演が行われた。

厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課 担当官より、AMR対策が言われる以前の2002年4月から、審査管理課が関与し、本研究会が設置された。4月には活動の成果を論文に纏め、活発な活動が行われていることに謝辞が述べられた。後発品の販売は80%の目標を達しており、現場での使用の中心が後発品に移ってきている状況で、15年前に想定されていたかどうか分からないが、先見の明があった取り組みと考えていることが説明された。バンコマイシンという良い薬を長く、大事に使っていくという意味でモデルケースになっている。また、AMR対策でもモデルケースである。こういう取り組みを引き続きよろしくお願ひしたいと、各社に協力を求めた。

6. リネゾリド研究会

リネゾリド研究会が、2017年12月12日に本協会会議室において開催され、VRE感受性測定、リネゾリド製剤の出荷量が報告され、適正使用推進への取り組みが話し合われた。

最後に、厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課 担当官より、AMRへの関心が高まっている中で、感受性に関する現場のデータ収集は産学の尽力の賜物である、リネゾリドを長く使うためには、こういった活動を長く続けることが重要である。調査結果に懸念事項があれば、早急に解析を行って適切に対応する、このように取り組むことで、適正使用につながるサイクルが生まれるため、この活動を長く続けていきたいと出席者に協力を求めた。

Ⅲ. 収益事業

賃貸事業

本協会の建物のうち1階を一般財団法人機能水研究振興財団に、3階を特定非営利活動法人バイオメディカルサイエンス研究会に、賃貸している。また、4階会議室については、会議室として貸し出し可能である旨をホームページ上に掲載し、希望がある時に、随時、貸し出している。

Ⅳ. 管理

1. 理事会及び評議員会

第20回理事会	2017年 5月 11日	[本協会会議室]
第7回評議員会	2017年 5月 26日	[本協会会議室]
第21回理事会	2017年 5月 30日	[本協会会議室]
第22回理事会	2017年 11月 6日	[本協会会議室]
第23回理事会	2018年 3月 6日	[本協会会議室]

2. 事務局長選考委員会

事務局長選考委員会が、2018年2月22日に、本協会会議室において開催され、加藤博之氏が選出された。

3. その他

本協会ホームページを主な媒体として広く、本協会の活動について啓発、広報を行った。

Ⅴ. 物故役員等

元評議員、元学術委員 松本 文夫先生 (2017年 11月 6日)

VI. 特別会員

旭化成ファーマ株式会社
アステラス製薬株式会社
エーザイ株式会社
MSD 株式会社
大塚製薬株式会社
科研製薬株式会社
杏林製薬株式会社
協和発酵キリン株式会社
小林化工株式会社
沢井製薬株式会社
参天製薬株式会社
サンド株式会社
塩野義製薬株式会社
シオノケミカル株式会社
第一三共株式会社
大興製薬株式会社
大正製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
大鵬薬品工業株式会社

武田テバファーマ株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
中外製薬株式会社
東和薬品株式会社
富山化学工業株式会社
日医工株式会社
一般社団法人日本血液製剤機構
バイエル薬品株式会社
光製薬株式会社
ファイザー株式会社
株式会社ポーラファルマ
マイラン EPD 合同会社
マイラン製薬株式会社
マルホ株式会社
ミヤリサン製薬株式会社
Meiji Seika ファルマ株式会社
ヤンセンファーマ株式会社

[以上 37 社]

VII. 月曜会委員

旭化成ファーマ株式会社 (山路真也)	大日本住友製薬株式会社** (若村友太郎)
アステラス製薬株式会社 (加藤研一・押田卓也・三木隆司)	武田薬品工業株式会社 (狩野宗英)
科研製薬株式会社 (村上 覚)	田辺三菱製薬株式会社 (河野雅信・菅生和正)
協和発酵キリン株式会社 (松田泰周)	富山化学工業株式会社 (地曳康訓・藤巻一雄)
塩野義製薬株式会社 (吉田博之・有安まり)	ファイザー株式会社 (長島正人・中島慶太郎)
第一三共株式会社* (南谷進市・大江慶司)	Meiji Seika ファルマ株式会社 (高橋 誠・上薮智史・近藤賢一郎)
大正製薬株式会社 (塚原勝則・生田朋久)	ヤンセンファーマ株式会社 (佐々木一尋・中山慶一・甲谷 茂)

[構成会社 14 社 (委員名) ; *幹事会社、**副幹事会社]

*月曜会 新ワクチン分科会委員

津下宏之・山内英征 (北里第一三共ワクチン株式会社)
狩野宗英 (武田薬品工業株式会社)
米岡一樹 (田辺三菱製薬株式会社)
山地雅子 (ファイザー株式会社)
佐々木一尋・中山慶一 (ヤンセンファーマ株式会社)

*月曜会 抗微生物薬等審査報告書 DB 作成分科会委員

大江慶司 (第一三共株式会社)
地曳康訓 (富山化学工業株式会社)
佐々木一尋 (ヤンセンファーマ株式会社)

*月曜会 協会事業検討委員会

南谷進市 (第一三共株式会社)
若村友太郎 (大日本住友製薬株式会社)
地曳康訓 (富山化学工業株式会社)

VIII. バンコマイシン研究会

小林化工株式会社
(西本啓太・安藤清秀)

沢井製薬株式会社
(浅田英文)

サンド株式会社
(稲澤 浩)

武田テバファーマ株式会社
(橋本和恵)

東和薬品株式会社
(林 訓子)

日医工株式会社
(高瀬宏樹)

光製薬株式会社
(石井成佳)

ファイザー株式会社
(大島純一)

マイラン製薬株式会社
(藤本隆則)

Meiji Seika ファルマ株式会社*
(片岡裕史)

[構成会社 10 社 (委員名) ; *幹事会社]

IX. リネゾリド研究会

沢井製薬株式会社
(吉川大輔)

シオノケミカル株式会社
(小宮淳史)

大興製薬株式会社
(加藤健郎)

光製薬株式会社
(石井成佳)

ファイザー株式会社*
(今井啓之)

Meiji Seika ファルマ株式会社
(片岡裕史)

[構成会社 6 社 (委員名) ; *幹事会社]

X. Friends of the Journal (国内外法人)

旭化成ファーマ株式会社

Asahi Kasei Pharma Corporation

科研製薬株式会社

KAKEN PHARMACEUTICAL CO., LTD.

杏林製薬株式会社

KYORIN Pharmaceutical Co., Ltd.

Meiji Seika ファルマ株式会社

Meiji Seika Pharma Co., Ltd.

日本マイクロバイオファーマ株式会社

MicroBiopharm Japan Co., Ltd.

大正製薬株式会社

Taisho Pharmaceutical Co., Ltd.

富山化学工業株式会社

TOYAMA CHEMICAL CO., LTD.

Traders Protein (U.S.A.法人)

[以上 8 法人]